

# スクミリンゴガイ情報第2号（水稲）

令和3年9月3日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

**発生ほ場率は過去10年間で2番目に多い！  
越冬量を減らすため、秋冬期対策を行いましょ**

## 1 本年の発生状況

7月下旬の巡回調査において、スクミリンゴガイの発生ほ場率は、33.5%（平年26.9%、前年34.8%）と、県内各地で本種による被害が多発した令和2年に次いで過去10年間で2番目に高い状況でした。また、ほとんどの株が食害に遭ったほ場も報告されています。

## 2 防除対策

本種は、ほ場、用排水路で土中に潜って越冬し、翌春気温が上昇し、水田に水が張られると活動を開始します。そのため、本田における越冬対策が重要です。

本種の越冬量を減らすには、**秋期の石灰窒素散布が効果的**です。下表を参考に**石灰窒素の散布**を行いましょ。水温17℃以上で散布すると高い殺貝効果を期待できるため、石灰窒素の散布時期に注意しましょ。

石灰窒素は活動していない貝には効果がないため、本田を湛水後1～4日放置し、貝を活動状態にさせた後に石灰窒素を散布しましょ。散布後3～4日間は湛水を維持しましょ。

なお、石灰窒素は魚毒性が高いため、漏水防止対策を行うとともに田面水は水路に流さず、自然落水するようにしましょ。

また、作業後の農業機械に本種が付着し移動することで、本種の発生範囲が拡大するおそれがあるため、作業を行うほ場の順番を考慮するとともに、農業機械を移動させる際は、泥をしっかりと洗い落としましょ。

## 3 その他

スクミリンゴガイの防除対策については、農林水産省がマニュアル等（アドレス：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/sukumi.html>）（令和3年3月改訂）を公開していますので、参考にしてください。

表 水稲のスクミリンゴガイに対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用方法	散布量	本剤の使用回数
石灰窒素55				
石灰窒素50				
粒状石灰窒素40	刈取後	散布 3～4cmに湛水し、1～4日後		
粒状石灰窒素55	(水温15℃以上の時期)	全面に散布、3～4日放置する。 (漏水を防止すること。)	20～30kg/10a	1回
カルメート55				
カルメート60				

使用回数には、同一有効成分を含む剤の使用回数を含む。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。